

2009 Summer VOL.62



夏はわたレジュンチャンはこれだノ▶

アイセレモニー株式会社

本社/営業本部・智の会・相談室・花環工房  
飯綱町黒川2415(飯綱ホールとなり)  
☎026-253-1377 FAX253-1378

フリーダイヤル ☎0120-796-311

- アイセレモニー飯綱ホール(飯綱町黒川)
- アイセレモニー五岳ホール(信濃町古間)

アイの四季だより 発行・責任者/丸山哲一

アイセレモニー飯綱ホールは

おかげ様で

開設10周年を迎えました

この春、四月二十九日(祝日)に飯綱町内名士の方々をお招きして、『アイセレモニー飯綱ホール開設10周年感謝の宴』を当ホールお斎室に於いて開催させていただきました。

各地区の区長様をはじめ、商工会様、老人会様、町議員様、そしてお近くでいつもお世話になっているレストラン・ルツクのオーナー三ツ井様、ご近所の黒川、古町の皆様、さらにご住職様、町内お取引で厄介お掛けしております、つるや様、明月堂様などその他大勢の皆様方にご参列の栄を賜りました。



県議会議員 服部宏昭氏

当地域でご活躍、おなじみの県議服部宏昭様に開宴の辞と励ましのお言葉を頂戴いたしまして幕は上がりました。

皆様の胸には名札を付けていただき、どなた様か分かるように。これが功を奏して、お互いに交流でき話が弾み、和氣藹々と大いに盛り上がり、楽しい刻を過ごすことが出来ました。



10才になりました。つまり「成人」?

その昔は「元服」。つまり成人になったということ。ですから、いつまでも甘ったれてはられません。

元服の年齢は定かではなかったよううで、13才から16才が多かったようです。早い方では7才というのがあります。記録に依りますと一八五(文治一年)今から八二四年前。中

山忠親の嫡男(正統のあとつぎ)とのことです。

元服、つまり成人とは「身体および精神の発育が適当な状態に達したと認められたとき」と定義されておりまして、弊社当ホールの場合は10年目にして、その願いが叶ったと自画自賛しているところであります。



ギタリスト ◀丸山博司さん

アイセレモニー飯綱ホール開設10周年レセプション

華なを添えていただきました

2009 特別出演 4.29

丸山博司とアンサンブル・ファンタジア



ジャズバンド率いる丸山博司さんは、飯綱町福井団地に居を構え「丸山博司ギター教室」を主宰しています。  
長野市から東北信一帯のライブハウスに出演しているギターの名手でありバンドマスターとして大活躍。今回、アイセレモニー飯綱ホール開設10周年感謝レセプションはフルメンバーで出演いただきました。  
特に美声で、艶やかな表現力で魅了するボーカリスト・ヴァーン湯本さんに座を一層盛り立てていただきました。



当社の社長挨拶を舞台袖からとらうと角田のん

アイセレモニー飯網ホール開設10周年  
感謝祭 第1弾!  
2009 6月20日(土)

# 武田徹のトークライブショー

**入場無料**

後援/SBC信越放送

地域の皆様にお育ていただいて10周年を迎え、つまり10才となりましたので、このご恩に報いなければバチが当たる。というところでいろいろ考えました。地域の皆さまに、どなたでも喜んで頂けるものは何か。SBCといえば武田徹。武田徹といえばSBC。これだ。さっそく武田徹さんと話し合いを重ね、ご当人の本業であり自慢のおしゃべり(トーク)と音楽のコラボレーションに決まり。



## 哀愁!感動!共感!興奮!

武田徹さんはニクイよ!

当日は土曜日。毎週土曜午前9時05分からSBCラジオ「武田徹のつれづれ散歩道」生番組が12時まで、このあとスタッフとのミーティングを行い、そのまま飯網町の当ホールへ。たぶん昼食取る時間も無かったでしょう。舞台のセットを確認してギター角田忠雄さんと音合わせ。PA(音響)は皆さまご存知の明願寺(信濃町柏原)ご住職の渡辺信雄さまが担当。知る人ぞ知る音響にかけては超ベテラン。リハーサル無しでブツケ本番。いつもの角田さんとコンビだから気心が知れていて、本業をそのまま地で行けるから。予想通り、会場は超満員の大盛況。リスナーの奥さま連が多く、終演後お帰りに握手をせがまれたり、一緒に写真撮ってに気軽に応えてくれて、武田徹さんの人柄の良さに、さらにファンが増えたようです。



武田徹さんは奥さま方にモチモチ!



「おしゃべり」の専門ホールの便利さを一度は見ておきたいとのご要望にお応えして、このような催事に合わせて気軽にご覧いただけるよう配慮しました。

アイセレモニー飯網ホール開設10周年  
感謝祭 第2弾!  
2009 7月20日(月) 海の日

## ぱびいの人形劇がやってきた



**入場無料**

感謝祭第1弾/武田徹ショーは、奥さま方のご来場が多かったためこの次の第2弾はどうしようと考えました。そうだな、いつのことチビツ子にしよう、人形劇にしました。将来を背負って立つ子供さん達にも感謝の気持ちを伝えよう、アイセレモニー(懐は考えました。チビツ子だけでは来れないよ。必ず親(大人)が連れてくる。だから一石二鳥。これが予想以上の大人気。お母さんがチビツ子、三人連れて来て、おばあちゃんがお孫さん、三人連れて来て、会場内はチビツ子であふれんばかり。



これは何だノタマだけでは抜けないお姉さんも、でも抜けない。客席のチビツ子手伝ってヨ、よいしょ!



チビツ子の熱気に圧倒されちゃって、舞台の隅で小さくなってチビツ子に向って挨拶する当社の大岡社長

**予告**  
次回第3弾は九月初旬に予定しています。お盆が過ぎてからいつものように折込チラシでお知らせいたしますので、ご期待ください。

**学劇団屋本舗**  
いよいよ登場!

今までご来場のご感想などお聞かせください。ご要望なども。